

# 柿 生 文 化

柿生郷土史料館 情報・研究誌

住所:川崎市麻生区上麻生 6-40-1

柿生中学校内

電話:070-1503-6401/044-988-0004

<http://web-asao.jp/hp2/k-kyoudo>

第143号

草創期の  
柿生中学校 - 10

## 『うれ柿』と学校生活の思い出……その4

小林 基男 (柿生郷土史料館専門委員)

### ◆遠足と修学旅行(2)◆

昭和20年代の柿生地域の殆どの中学生にとっては、電車やバスに乗ることさえめったに経験することのない、心躍る体験でしたから、未知の世界を見学する毎年の遠足は、飛び切りの楽しかった思い出として記憶の壁に刻まれました。

日帰りの遠足ですらこうなのですから、クラスの仲間たちと枕を並べて寝泊まりする修学旅行は、より強い印象を残すこととなります。しかし、宿泊を伴う旅行となると、遠足に比べ格段に高額のコストが必要となりますし、先生方の準備もまた大変です。そのため開校と同時に学校行事に加えることは出来なかったのです。では、修学旅行は何期生の時に実現したのでしょうか。

柿生中学校には、1951(昭和26)年3月卒業の3期生が、卒業旅行として修善寺温泉に宿泊した時の記念写真が残されています。3期生の皆様に伺ったところ、修善寺への卒業旅行が、初めてのお泊り旅行で、修学旅行に行った記憶はないと、異口同音に話してくださいました。当時の食糧事情によるのですが、1食に1合の割合で食数分のお米を持っていったのが、現在と大きく違うところでした。3期生の皆様は、初日の夕食、翌日の朝食と昼食用のおにぎりとお米3合を持って行ったと、懐かしそうに教えてくださいました。

初めて学校行事に修学旅行が加わったのは、4期生からでした。現在も続く関西方面(京都・奈良)への3泊4日の長距離旅行です。といっても1951(昭和26)年のことです。日本全体がほぼ焦土と化した敗戦の痛手から、必死の努力で復興と再建の道を歩みだしていたとはいえ、まだまだ大変に貧しかった時期です。純農村地帯だった柿生地域も例外ではなく、父母から徴収する旅行費用をできるだけ節約した旅行でした。新幹線はまだなかった時代ですが、別料金が必要となる特急や急行は走っていません。しかしそんな贅沢は許されません。関西への往復とも特別料金のかからない各駅停車の旅でした。当時の時刻表で調べると、京都までおよそ12時間半の旅です。地域の違いなのでしょうが、関西旅行ではお米を持って行く必要はなく、宿舎によって米の持参が必要か否かは違っていったようです。

往路は夜行列車を使い(車中1泊)、翌朝京都駅に到着、1日市内を見学して京都に1泊。翌日は奈良に向かい、猿沢の池からほど近い旅館に宿泊、翌朝京都駅から今度は日中の各駅停車で帰路についています。夜行列車の旅など、まず生徒全員が初体験でしたから、日中の列車の旅以上に皆が興奮します。夜になってもなかなか寝付けず、眠っても眠りは浅かったのでしょうか。どなたに伺っても2日目の奈良観光の記憶に比べ、初日の京都観光の記憶がいまいちなままでした。それでも4期生のある方は、京都御所の見学の際、「ここでは特に静かにしているように」と注意があったので、あんまり静かでつい居眠りしたのを覚えている。ともかく寝不足で、京都はひたすら眠かったと話してくださいました。旅行で楽しかったことを伺うと、奈良公園で鹿と遊んだことと答える方が多数でした。



6期生(?)の修学旅行 奈良公園の鹿と



3期生の卒業旅行 修善寺の旅館前で

修学旅行の時期は、4期生は冬の寒い時期だったそうで、「自分用のコートなどなかったの、親父の古いコートを母親がつめてくれたのを着ていたけれど、それでも寒かった」と語ってくれました。5期生からは秋となり、「制服で歩くところどうよかった」そうです。6期生の出発は、「大きな被害の出た台風の直後で、行けるかどうか心配した」ことはしっかり覚えているそうです。

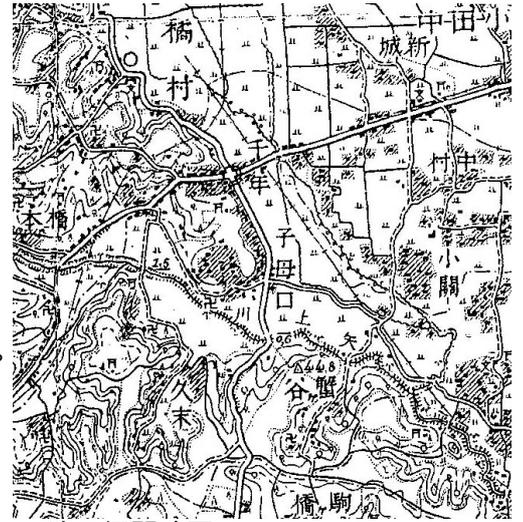
鶴見川流域の中世  
その3

## 中世人の生活の舞台としての鶴見川 (3)

中西望介(戦国史研究会会員・都筑橋樹研究会会員)

渋口郷(今の子母口)に関する至徳元年(1384)の「正本文書」に収められた渋口郷地検目録(以下地検目録と略記)は、中世東国の村落構造を理解する上で貴重な史料である。

渋口郷は江戸時代の子母口村と明津村およびその周辺を含む地域であった。鶴見川の支流である矢上川と江川に挟まれた台地の南端部には、橋樹神社や子母口富士見台古墳が所在するのでここが郷の中心であろう。橋樹神社に接する谷の中央部からは中世の溝・建物址・井戸址・中国製青磁皿・常滑産陶器等が出土している(植之台遺跡)。この台地の北側は中原街道によって、影向寺や国史跡橋樹郡衙跡がある台地と隔てられている。江川の北側は多摩川の沖積低地が広がり、矢上川の南側は久末・蟹ヶ谷・井田の台地が迫り、台地には幾筋もの谷戸が複雑に入り込んでいる。明治13年測量の地図を見ると、水田は矢上川に沿った低地と江川の北側の低地および谷戸にあって、集落は橋樹神社が鎮座する丘陵の南斜面と、矢上川左岸に位置する明津の微高地に集中している。付近の丘陵には中原街道をはじめ鎌倉道の伝承地が幾筋も通り、この土地が交通の分岐点であることがうかがえる。



渋口郷関連図

「千年」の左下鳥居の印が橋樹神社  
「子母口」の左側が郷の中心の台地

『川崎市史資料編』に収録された「地検目録」を見てみよう。永徳4年2月26日の日付になっているが、偶然にもこの翌日に改元が行われて至徳元年になっている。

渋口郷を新たに拝領した上野国新田の武士岩松氏が渋口郷へ入部するにあたり、「ひこ七郎」に地検目録を作成させて提出させた。岩松氏の関心は田地の様子と年貢を納める在家百姓および年貢高であることは言うまでもない。年貢高は銭に換算し直して都合 39 貫 613 文であった。この当時は年貢・公事を負担する百姓の単位は「在家」と呼ばれ、家屋・附属する菜園を中心にして周囲に水田が付属していたが、渋口郷にはこの在家が6戸あった。その在家の田地には能登房作・きやうみち作・浄法作・左近五郎作・七郎分・かくなん分と記されて、それぞれ領家方・二木方・たたえ方・立河方に属していた。

在家の水田の規模は1町から2町程度である。「作」は実際に耕作しているか、耕作権を持っている事を表している。能登房・きやうみち・浄法・左近五郎の四人は渋口郷の百姓で、実際に田畠を耕すか作人に耕作させていたのであろう。「人名+分」というのは在家田畠の所有権を示している。七郎・かくなんは渋口郷の百姓であるが自ら耕作していないかもしれない。いずれにしても渋口郷の在家を持つ百姓は6人だった。それでは百姓の数が少ないと思われるが、「地検目録」という「公的」な文書には年貢・公事を負担する百姓が6人である事を示しているわけで、この他に史料に表れてこない一人前の在家とは認識されない住人や在家に隷属した人々がいたであろう。そうした人々がいなければ七郎分やかくなん分の田を耕作する事は出来なくなる。渋口郷には様々な階層の住民が住んでいたという事が、この史料の背後から浮かび上がってくる。

渋口郷で大きな田地を所有する在家「浄法」はどこに住んでいたのだろうか。川崎市発行の5000分の1「久末」地図を見ると、久末と蟹ヶ谷の境に城法谷の地名が記されていることに目が留まった。『川崎地名辞典』で確認すると読みは「ジョウホウ」で、地名の由来は不明と記している。在家にある「浄法」も読みは「ジョウホウ」で共通である。現在は久末に属しているが、谷の入口から郷の中心である橋樹神社までは400mと極めて近い。城法谷は在家「浄法」の名残りではなかろうか。城法谷が矢上川に合流する辺りは谷幅が大きく広がり水田が造られている。谷の入口付近の緩斜面に屋敷を構えて、屋敷周辺に畠を造り谷戸田から安定した収穫を得る一方で、矢上川に沿った低地の耕作を行っていたと考えられる。「地検目録」には堰の維持管理に田地の15%を免田に割いているので、堰や水路の維持管理に苦心していたことがうかがえる。

さらに「地検目録」には在家とは性格の異なる記事がある。「阿久津殿」と「横山殿」である。「殿」が付いている事から推測すると、百姓身分と領主の中間に位置する地侍層であろう。阿久津殿は子母口の隣に位置する明津に関わる人物と考えられる。明津の常専寺付近の畑からは、古瓶に入った約8貫の古銭が発見されていることから、明津には交通の分岐点に拠点を構え交易を生業としてする有徳人がいた可能性もある。

(つづく)

## 寺社の歳時記

## 旧小机領三十三所観音霊場御開帳

森光彦(王禅寺副住職)

今年は旧小机領三十三所観音霊場の御開帳が行われます(期間は4月1日から5月6日)。旧小机領三十三所観音霊場は、中世から近世にかけて使われていた広域行政単位のひとつである旧小机領(武蔵国都筑郡、橘樹郡にまたがる地域で、現在の横浜市北部と川崎市麻生区、町田市の一部)に点在する観音様を本尊とする33ヶ寺が札所となり、12年に一度、子年に開帳することから「子年観音霊場」ともいわれています。当山(王禅寺)はこの観音霊場に属しており、第22番札所となっています。

「開帳」とは、普段直に拝むことのできない秘仏を、日を決めて拝観できるようにする行事のことです。秘仏が納められている厨子の扉をひらくことから「開扉」ともいわれます。期間中は、近隣だけでなく遠方よりお参りに見える方もおり、また参拝者へのお接待もあるので、どの札所も多くの参拝者で賑わいを見せます。

観音様への信仰は、数ある仏教信仰のうちでも多くの人々に最も普遍的に親しまれているといえるでしょう。観音信仰の基盤をなす代表的な仏教經典に「観音経」(妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五)があります。観音様が現世で苦悩する人々に授けてくれるご利益を説いた經典ですが、そこには、「真心をもって一心に観音の御名を唱えれば、その音声を観じてたちどころにわれわれの苦悩を観音菩薩は救いたもう」とあります。そして「観音菩薩の慈悲心の働きが、姿を33種に変じて人々の救いとなる」とあります。この33という数に合わせて始められたのが全国に存在する三十三所観音霊場巡りなのです。

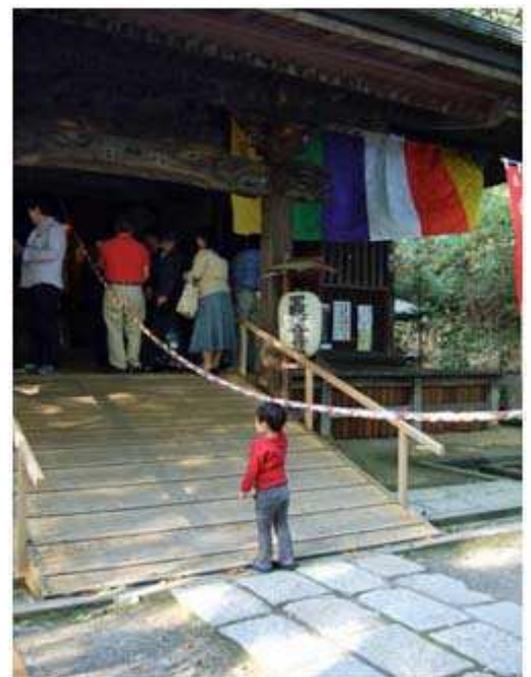
さて、それではこの観音霊場巡りがいつ頃から始まったかと云うと、今から1300年ほど前、大和の国長谷寺の開山徳道上人が開創したと伝えられている、西国三十三所観音霊場が最初の霊場といわれています。当初の巡礼は、修験者や僧の修行あるいは貴族階級が願掛けのために行うものでしたが、平安から鎌倉、室町時代を経て江戸時代に至って一般庶民の間にも広まりました。その間全国各地に同様の霊場が模倣されるようになり、霊場巡礼による観音信仰はいよいよ盛り上がってきました。この三十三所観音霊場巡礼のブームに乗って、旧小机領三十三所観音霊場も創設されたと思われます。

霊場についての記録は大半が焼失しており、詳細は不明ながら、今日までに残っている記録や言い伝えを総合して次のような縁起がうかがえます。以下に昭和35年の開帳時に霊場会より配布された縁起の一部を転載します。

「まずこの霊場開創の発意を起こさせた原因として言い伝えられていることは、年々に洪水をもたらし、農作、人畜に大変な損害を与える鶴見川の水害からその除災を願い、亡き犠牲者への回向のためとの説がある。その原因は兎も角、徳川8代将軍吉宗の時代、享保年間に小机の辺りに熱心な観音信仰の滝野愛勝という人があって、この滝野愛勝がかねて念願する三十三所観音霊場の創設を、現在第三十三番札止めの霊場である法昌寺の宗雲和尚にはかったところ、宗雲和尚は同寺の朝庵和尚と共に、現在の第一番の霊場泉谷寺の転誉上人を訪れ、そのことについて相談し、この3人の和尚によって霊場草創の案が立てられたということである。そしてこの3人はまず旧小机領の寺々を巡って、霊場に適する寺に霊場創設を勧奨し、転誉上人から幕府に霊場開設が願出され、許しを得てここに小机領三十三所観音霊場の開創を見るに至った。時に享保17年壬子、今から288年前のことであった。この霊場の開創によって、近郷近在の善男善女は大いに歓喜して巡礼納札する者日増しに多くなり、札所はたいそう



納経掛軸(昭和59年御開帳時)



王禅寺御開帳の様子①(平成20年)

賑ったということである。その後24年を経て、宝暦6年丙子の年に各霊場は始めて尊像の開帳を行ったところ、人々は皆大いに歓喜渴仰したと伝えられている。それからは子の年毎に開帳する慣わしとなり今日に及んでいる。」

このように、旧小机領三十三所観音霊場は江戸時代享保年間に開設され、以来人々の観音信仰に支えられて変わらぬ賑わいを保ってきました。今年は子年であり、12年に一度巡ってくる御開帳がこの年に当たっているという勝縁を機会に是非参拝なされますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、寄稿の機会を与えてくださった関係各位の皆様にお礼を申し上げ結びとさせていただきます。



王禅寺御開帳の様子②(平成20年)

## 柿生郷土史料館催物案内 【参加自由、入場無料】

◎開館日:奇数月は毎日曜日、偶数月は毎土曜日 (原則として月4回)

**4月** 18・25日(毎土曜日) **5月** 17・24・31日(毎日曜日)

◎開館時間:午前10時～午後3時 (4月4・11日、5月3・10日は休館です)

第84回  
カルチャーセミナー

### 秩父流平氏 畠山重忠と稲毛重成 ～その鉄並びに杉山神社とのかかわりを追う～

東国の鍛冶棟梁と言われる秩父氏の嫡流 畠山重忠と彼の従兄弟 稲毛重成。この二人の鉄とのかかわりを確認し、さらに杉山神社との接点を探ります。

杉山神社の分布範囲は、秩父流平氏の勢力分布と驚くほど重なっており、杉山神社解明の新たな糸口からのアプローチです。

日時 : 4月25日(土) 13時30分～15時30分

講師 : 岡田誠治氏(麻生歴史の会副委員長)

会場 : 柿生郷土史料館特別展示室

第18回 特別企画展

### 続 戦中・戦後の教科書展

柿生中学校の創立70周年記念事業に、協賛する形で開催した、戦中・戦後の教科書展は、幸い好評のうちに終了となりましたが、皆さまから、再度実施してほしいとの声もあり、2017年10月以降に、新たに見つかった戦前・戦中の教科書も相当数に上ることから、新発見の教科書も加えた形で、ここに改めて、「続 戦中・戦後の教科書展」として、再度教科書の特別展を開くこととしました。現在の教科書との違いを、しっかりご覧ください。

期間 4月18日(土) ～ 8月29日(土)

会場 柿生郷土史料館特別展示室